

JICA 中国事務所ニュース

(2007年6月号)

1. 最近のトピック

(1) 青年研修事業 20 周年式典開催！

青年研修事業(旧・青年招へい事業)は、1986年に当時の中曽根首相が訪中した際に、胡耀邦総書記(当時)との合意に基づきスタートした事業であり、今年実施から20周年を迎えました。

本事業の20周年を祝うための行事が6月30日(土)に、北京市内の日中青年交流センターにおいて、約260名の参加者の出席の下で実施されました。

式典においては、中華全国青年連合会の張曉蘭副主席、在中国日本大使館の宮本雄二大使や国家科学技術部葉副司長、JICA アジア第2部の海保部長が、20周年を迎えた本事業に対する祝辞を述べました。



式典において祝辞を述べられる宮本大使

その後、本事業の20周年の歴史を振り返るDVDが会場で放映されました。DVDの映像には、日中国交正常化の際の田中首相や、本事業が開始された際に交渉にあたった中曽根首相などの懐かしい姿や、緒方理事長からの祝賀メッセージも加わり、本青年研修事業がこれまでに日中友好に貢献してきたかが、実感される内容でした。

式典の後半においては、これまで本事業に関わってきた日本の受け入れ団体やホストファミリーの代表、参加青年等がこれまでの成果や本事業に対する将来の期待などについて、パネルディスカッション形式で意見交換を行いました。

参加者の大きな感動を呼んだのが、ホームステイ家族代表の松本健二・栖子夫妻が10年前に日本でホームステイを受け入れたことのある尼瑪卓瑪氏の娘である白瑪文毛氏との対面の場面でした。残念ながら

尼瑪卓瑪氏は仕事の都合で参加できませんでしたが、同氏の娘である白瑪文毛氏が、同氏から託された手紙を読み上げ、松本氏が10年前に当時9歳であった白瑪文毛氏が書いた絵を会場で紹介したくだけでは、松本氏のみならず、会場の参加者も目頭を熱くする光景が見られました。



白瑪文毛氏と松本夫妻の対面

さらに、夕方には、日本大使公邸において祝賀レセプションが開催されました。このレセプションには、中国共産主義青年団中央書記処の胡春華第一書記や外交部の崔天凱部長助理(副大臣)など多数の要人(ほとんどが青年招聘事業の参加経験者)が参加される中、また日本から帰国したばかりの青年たち100名やこの日のためにわざわざ日本からやってきたホームステイ家族の皆さん等が歓談する中、青年達から歌や踊りが次々と披露されるなど、大変なごやかにレセプションがとり行われました。



宮本大使(一番右)、胡春華第一書記(右から二人目)などが参加したレセプションの様子

(2)古賀事務所長、山西省雁門関生態環境回復及び貧困緩和プロジェクトを視察

5月30日から3日間、古賀所長が山西省で行われている「雁門関生態環境回復及び貧困緩和プロジェクト」を視察しました。

3月に開始したばかりのプロジェクトは、現在、実験圃場を導入するなどして、参加型を中心とした調査活動の真っ最中です。婁煩県では、アルファルファの播種実習、種ウサギによる生計向上活動などについて、中国側のチーフから説明を受けました。これから様々なプロジェクト活動に向けて、カウンターパート、住民が期待に胸を膨らませている様子が実感できました。



種ウサギの飼育場における調査概要の説明を行う
丸本チーフ(婁煩県羊庄園村にて)

最終日には、山西省の蔬菜研究所を訪問しました。巫所長はハクサイ、馬副所長はトウガラシ、張研究員はトマト、武研究員はダイコンのスペシャリストです。山西省と埼玉県とが姉妹都市であることもあり、副所長と張研究員は埼玉県の農業大学校への留学経験を持っています。さて、野菜のスペシャリストに囲まれた古賀所長、「野菜魂」に火が点いたのか「私の専門はニンジンです。純粋に研究者同士、意見交換しましょう！」と挨拶し、ここに野菜対決のゴングが鳴りました…。

そして「細胞質雄性不稔種の採種ノウハウ」「雌株列を挟み込む雄株列の間隔を2.5m～3.0mにする理由」など、マニアックなまでに専門的な議論が繰り広げられていきました。その後、試験場内のニンジンの採種場を訪問。最後には、所長から、「機会があれば今後のJICA 事業への協力をよろしくお願いします」と挨拶し、視察は無事終了することとなりました。



採種用ニンジンの花を覗き込む古賀所長
(太原、山西省蔬菜研究所にて)

今後、プロジェクトの進捗と共に、野菜関係？の協力も充実したものとなることが期待されます。(業務班/西村拓)

(3)新隊員7名が着任！

6月21日(木)、青年海外協力隊の平成19年度第1次隊計6名が北京に着任しました。新隊員の指導分野は、日本語、小学校教諭、看護師、野球などです。

新隊員の皆さんは、約20日間の北京滞在中、主に世青中学での語学訓練で中国語のレベルアップに励む予定ですが、たまたま同時期に開催される「青年研修事業20周年式典」や「ボランティア総会」にも参加する予定です。

語学訓練期間中にこのような行事が重なることはあまりないため、赴任の最終準備の中、若干日程が忙しくなりますが、おそらく今後の中国での活動において参考になるような先輩隊員等との交流もできるのではないかと思います。

これから新隊員6名は、7月12日(木)にそれぞれの任地に赴任する予定です。



新隊員6名と世青中学の先生方

2. 主な調査団(派遣中・派遣予定)(6月)

中国事務所への在外調達支援調査団
大久保団長 (6.10-6.13)
中国立法交流プロジェクト事前調査
熊谷団長 (6.10-6.20)

3. 6月の主要行事

青年研修「日中青年の友情計画」訪日団 100 名出発
(6/12)
青年研修(旧青年招へい)20周年記念行事(6/30)

4. 専門家・ボランティアコーナー

今月は、重慶市で活動中の鈴木順子隊員(幼稚園教諭)からの投稿をご紹介します。

「重慶に 来たらあなたは もうトリコ」

皆さんこんにちは。私は重慶市で幼稚園教諭をしている鈴木順子です。ここでの活動も残すところ 4 ヶ月になってしまいました。今回は皆さんに私の任地である重慶を紹介したいとおもいます。もう皆さんご存知かとおもいますが重慶は中国三大釜戸の一つです。夏は蒸し暑いと聞いていましたが、想像を上回る暑さでした。去年は特に暑く水不足により工場や学校が休みになるほどでした。外に出ると、熱気がすごくて息が吸えなくなる感じがします。たとえて言うならば、サウナに入った瞬間でしょうか。こんな暑さになるのは 50 年ぶりだそうです。

重慶の人々はこの暑さの中で真っ赤な火鍋と山城ビールで元気を保っているそうです。すごいですね！私も去年はそれで何とか乗り切りました。でも、今年は去年を上回る暑さになるそうです。考えると恐ろしいですが、その猛烈に暑い 2 年間をここで過ごせるなんてある意味私はラッキーです！



重慶といえばスパイシー料理。代表料理は火鍋です。皆さん重慶料理は好きですか？一度食べると山椒がビリビリと利いてくせになってしまいます。でも、スパイシーなのは料理だけではありません。重慶の女性です。「成都の女性はスウィートガール、重慶の女性はスパイシーガール。」うまいことを言いますね。私が赴任した当初はこの言葉を聞いて納得してしまいました。この女性は、言いたい事はすぐに口にする率直な性格の人が多く、喧嘩しているのかというくらい声の大きい、喧嘩っ早い、男性より権限があり・・・おっと、これ以上はやめておきます。みんながみんなそうではないですが、私の職場は女性ばかりなので特にそう感じます。はじめははっきりときつい事を言われ泣きそうになったり、そしてけんかしたこともありましたが、でも、本当はすごく心の温かい人たちのです。どの人も顔をあわせると「シュンズー(私の名前)元気？困った事があつたらなんでも言いなさい！」これが私たちの挨拶となっています。一回親しくなると、嫌な顔一つせず面倒を見てくれます。



毎日この人々と生活をし、私もすっかりスパイシーガール？になりました。今ではタクシーの運転手と口げんかをして勝ってしまうくらいスパイシーです！私のここでの生活は、温かい重慶の人々に支えられとても楽しく過ごす事ができています。重慶の人々に感謝

の毎日です。

皆さんもぜひ重慶へ遊びに来てください。そしてスパイシーガールたちと交流し、スパイシーな体験を沢山してください。

*。専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所 周南 (zhounan.cn@jica.go.jp) までお願いいたします。